

今年度、最初の国語科の研究授業を武田先生に行っていただきました。本単元では、「家族に向けて、学校での出来事について新聞を書いて伝える」という単元ゴールを設定していました。本時は、5/9時間目です。①決められた分量で書くために記事に使わない情報は何か ②本当に自分の伝えたいことが伝わるかの2点をもとに、文章の構成をグループで見直していく学習でした。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 「家族に伝えよう！学校での出来事！」全9時間
教材名 「みんなで新聞を作ろう」(東京書籍) **4年2組 武田 北斗 先生**
本時の目標：グループで伝えたいことが伝わる文章の構成を考えることができる。
本時における見方・考え方：伝えたいことが伝わる新聞を書くために、文章の構成についてこだわって考えている。



本時の板書5/9

タブレットのjamボードで「伝えたいこと」「集めた情報」などを付箋で色分けし、移動させながら効果的に活用していました。



付せんにあるような情報を使おうかな。これは、必要かな。

決められた割り付けで書けるのか文章を考えています。

書き留めた付箋の言葉に着目し、必要な情報、そうでない情報はないか話し合っています。

武田先生による授業のリフレクション

子どもの本時での付けたい力を明確に持ち、そこに向けての活動の仕掛けを意識しないといけないなと思いました。困り感を持たせても、視点がずれてしまってもったいないなと感じました。今後は、付けたい力に向かった視点を1つだけに絞り、そこに向けて全員が活動できる授業展開を創っていきたいです。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定
 - グループ活動がよくでき、子ども達が学びを進めていた。
 - ICT(クロムブックのjamボード)を活用しながら、自然な対話や主体的な姿が見られた。
 - ▼必要ない付箋をのける根拠が対話の中で見られるとよかった。
 - ▼ICTの活用はよいが、根拠などを残せないで、ノートに書いてもよかった。ICTの活用とノートの使い方について、今後考えていく必要がある。

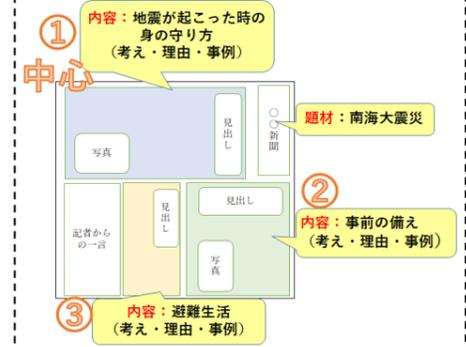


- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫
 - 相手・目的意識があり、題材がよかった。
 - 困り感から学習を進めていったことがよかった。

- 3 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ
 - 2つの視点が示されていることがよかった。
 - 見出しの工夫やインタビューをもとにした情報などが付箋に書かれていてよかった。
 - ▼①の「決められた分量で書くため…」の視点到意識がいき、②の「自分が伝えたいことが伝わるか」の視点が弱かった。そのため、②の視点にもどす中間指導、または②の視点から先に考えさせるとよかった。
 - ▼文字数よりもなぜその情報を入れたいのか、何を伝えたいのか言葉へのこだわりをもたせたい。
 - ▼文章構成とはどういうことか押さえる必要があった。
 - ▼付箋に書いてあることが、短い言葉で書かれていることもあり、根拠のある取捨選択に難しさがあった。

間指導主事より(本単元・本時の学びのポイント)

- 子どもがつくる学び
 - ・岸田先生のご指導のもと、始めに困りごとを引き出したうえで「子どもに学習過程を任せる」授業を展開しようという意図が見えた。主体的に解決してこうという子供の姿が見られた。
 - ・困りごとが文字数に集中してしまったため、構成への困り感をいかに引き出すかということが重要。
- 新聞における文章構成
 - ・新聞の特徴を捉え、その構成とはどういうものかをイメージしておくことで、働かせたい見方・考え方を明確にすることができる。
 - ・構成を考える上で大事なことは一番伝えたいこと。一番伝えたいことは〇〇だから、「どんな割り付けが必要か」や「考えと理由をどのように書くか」を考えられるようにしたい。



武田先生の授業では、子ども達が主体的に対話しながら自分たちで学習を進めている姿がたくさん見られ、「子どもが学びをつくる」一目指したい姿だなと思いました。国語科においては、言葉による見方・考え方を働かせながら資質・能力の育成を図るために、見方・考え方を明確にすることや言葉にこだわることを大切にいきましょう！

また、間指導主事の「指導と評価の一体化」についての講話では、目指す子どもの姿を明確にし、どの活動で見取るのか、見取ったことをもとに発問や活動を工夫し、児童の学習改善、教師の指導改善につながるものにしていくことを学びました。今後もみんなで、また、それぞれに課題意識をもって授業改善に努めていきたいと思っています。